

評価結果概要表

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3890100302
法人名	佐藤循環器科内科
事業所名	グループホーム朝生田の里
所在地	愛媛県松山市朝生田町4丁目10-25
自己評価作成日	平成25年7月1日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（↓このURLをクリック）

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人JMACS
所在地	愛媛県松山市千舟町6丁目1番地3 チフネビル501
訪問調査日	平成25年7月17日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

当施設は、利用者の半分の方が透析患者の為週3回透析を受けておられます。食事や水分、運動制限がある中で生活し、その中で日々の楽しみを見つけ、月別や毎週日曜日のレクリエーションは力を入れて取り組んでいます。誕生日には個々の希望を聞きながら行きたい場所にお連れし、個別支援にも力をいれています。また夏祭りや体育祭、敬老会等の地域の交流も大切にし、地域密着型の施設を目指しています。職員が寄り添い、家族と共に支えながら終末まで過ごせるよう医療と連携を取ってグループ全体で支援しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

●お花のお好きな利用者が、居間に腰掛けた際に見える位置に、お花を植えておられる。ミニトマトも栽培されており、利用者と職員が水遣りをされる。
●職員が利用者の誕生日に「利用者の希望を叶える支援をしたい」と提案され、職員は、利用者と一対一で「墓参り」「洋服の買い物」「外食」等に出かけ、利用者の夢を実現することに取り組まれた。利用者からは「ゆっくりできてよかった」と感想があったようだ。
●前回の外部評価を受け、管理者は、「利用者の思いを深く知りたい」と、ケース記録に利用者との会話や要望を記録する取り組みを始められた。又、利用者の入居前の生活についてご家族にお聞きして、職員全体で共有する仕組みを作られ、口数の少ない利用者のお若い頃の様子を知ることにつながり、ご本人とのコミュニケーションが図りやすくなったという成果もあったようだ。

V. サービスの成果に関する項目（アウトカム項目） ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目：23, 24, 25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目：9, 10, 19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらい の				2. 家族の2/3くらい と
			3. 利用者の1/3くらい				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目：18, 38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目：2, 20)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度 ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目：38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目：4)	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらい が				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目：36, 37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目：11, 12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらい が				2. 職員の2/3くらい が
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらい が				2. 利用者の2/3くらい が
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目：30, 31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等 が
			2. 利用者の2/3くらい が				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目：28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらい が				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

I.理念に基づく運営

II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援

III.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

IV.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。
- 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含まれます。
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。
- チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 グループホーム朝生田の里

(ユニット名) 1階

記入者(管理者)

氏 名 名本 公平

評価完了日 25 年 7 月 1 日

自己評価及び外部評価表

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
I.理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所 理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有 して実践につなげている	(自己評価)	
			リビング、事務所等に貼り、職員が共有し実践につなげている。	
			(外部評価)	
			「尊厳の保持」「自立支援」「地域とのふれあい」と理念を掲げ、職員の全体会議やリーダー会時に、理念に沿った活動や支援ができるよう、話し合っておられる。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられる よう、事業所自体が地域の一員として日常的に 交流している	(自己評価)	
			地域の夏祭りや体育祭、近隣施設の行事に参加している。 また、散歩時近隣の方と顔見知りの関係になり、コミュニケーションを図っている。	
			(外部評価)	
			調査訪問日には、車椅子を使用する利用者と職員で、近所に回覧板を届けに出かけていかれる様子がみられた。今年で10回目となる事業所主催の「夏祭り」は、ご家族や地域の方を含め、300人以上の参加がある。利用者は、地域の方達と一緒に盆踊りを踊ったり、フラダンスを見て楽しまれている。日頃、食事制限のある利用者も主治医の了解を得て、屋台をまわり、好きな食べ物を食べたり、お酒も少し飲んで楽しめたようだ。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症 の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向 けて活かしている	(自己評価)	
			運営推進会議(里の集い)にて介護に関する相談等を受け付けている。	

自己評価及び外部評価表

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価)	
			運営推進会議(里の集い)にて施設の取り組みや外部評価の結果等を報告している。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	(外部評価)	
			運営推進会議へ参加しやすいよう配慮して、「里の集い」と名前を付け、取り組まれている。「集い」は、夏祭りと併せて行われたり、会議形式で行事の計画について報告されたり、又、外部評価結果をもとに事業所の課題点を挙げ、今後どのように取り組んでいくか発表されたこともある。地域包括支援センターの担当者に、石井地区の地域密着型サービス事業所の集まりがあることを教えていただいたことで、参加するきっかけとなっていた。	いろいろな地域の方に会議参加を呼びかけ、事業所のことや認知症について、より具体的に知ってもらえるよう工夫し、事業所への理解や協力者を増やしていかれてほしい。
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価)	
			内部研修を行い、全職員が身体拘束について理解している。身体拘束を行わないように見守りを行ったり、家族に協力していただいている。	
			(外部評価)	
			運営推進会議で、ご家族への情報提供について報告された際、市の担当者の方から「年間行事や支援の取り組みを写真だけでなく、動画(ビデオ)で振り返ってみてはどうか」と意見をいただき、クリスマス会でビデオ上映をされた。ご家族からは、「いい笑顔が見れました。楽しそうですね、花見に行っただけですね」等、感想をいただいた。市の担当者が運営推進会議を欠席された場合は、次の会議案内は、電話でも連絡して積極的に働きかけ、参加をお願いされている。	
			(自己評価)	
			内部研修を行い、全職員が身体拘束について理解している。身体拘束を行わないように見守りを行ったり、家族に協力していただいている。	
			(外部評価)	
			利用者は、家や子どもを心配して、「家に帰りたい」と言われることが多いようで、「帰りたい」気持ち強い利用者には、ご本人が納得いくまで職員が付き添っておられる。利用者が遠くまで歩かれる場合は、別の職員が車で迎えに行き、ご本人が納得して事業所に戻れるよう支援されている。	

自己評価及び外部評価表

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価)	
			内部研修で学ぶ機会を設けている。また、入浴時やオムツ交換時には、不審な点はないか身体観察を行っている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価)	
			個々で外部研修に参加したり、運営推進会議で地域包括支援センターの方に成年後見制度について学んだ。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価)	
			管理者が十分な説明を行い、納得された上で契約していただいている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価)	
			日頃から利用者とコミュニケーションを取ったり、家族が来所された時は状況報告を行い、意見や要望を言ってもらえるような関係作りを心がけている。また、意見箱・苦情相談窓口を設置している。	
			(外部評価)	
			ご家族の来訪時、職員は、日頃の利用者との会話や行動、発言を伝えることに取り組まれており、管理者は、ご家族とのコミュニケーションが深まったことを感じておられる。今年度、職員体制が新たになったことをきっかけに、ユニットリーダーは、各ご家族と面談する時間を設けられ、利用者が入居する前の生活、生活で気になること、サービスへの要望を聞き取られた。面談することでご家族の様子等もよくわかったようだ。	

自己評価及び外部評価表

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価)	
			毎月のカンファレンス、年3回の全体会議で意見や提案を聞き、意見交換を行い反映させている。	
			(外部評価)	
			職員が利用者の誕生日に「利用者の希望を叶える支援をしたい」と提案され、職員は、利用者と一対一で「墓参り」「洋服の買い物」「外食」等に出かけ、利用者の夢を実現することに取り組まれた。利用者からは「ゆっくりできてよかった」と感想があったようだ。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価)	
			学会発表や受けた研修を報告する年末報告を実施し、代表者が査定し賞与及び給与へ反映させている。	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価)	
			内部研修、外部研修への計画、参加を進めている。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価)	
			研修や発表会に参加し、他事業所とのネットワーク作りや情報交換を行っている。また、発表などを聞いて参考になっている。	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価)	
			入居前にはホーム内を見学したり、面談を行っている。本人・家族の不安や要望等を聞き、信頼関係が築けるように努力している。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 入居前や契約時に家族と面談する時間を持ち、安心して任せて頂けるように努めている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 本人・家族と相談しながら、アセスメントやカンファレンスを通じて適切なサービス提供に努めている。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 本人の意思を尊重し、一方的なサービスではなく、同じ空間を共に過ごし一緒に暮らしている思いを持てる様関係作りに努めている。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 事業所で行う行事に参加して頂き、利用者と家族が関わりが持てるように努めている。また、ケアプラン更新時は家族にも意見をお聞きしている。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 自宅への外出、家族や友人の面会、電話・手紙等自由に行って頂き、今までの関係が途切れないように努めている。 (外部評価) 利用者の友人と一緒に来訪されるご家族もいる。「友人と話したい」と希望があった場合は、各居室に設置されている電話を使用して職員が電話をかけ、支援をされている。タクシーで馴染みの美容室におひとりで出かける利用者もおられ、出かける直前と帰る前に美容室と連絡を取り合って、安全に行き来できるよう支援されている。	

自己評価及び外部評価表

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価)	
			利用者の言動に注意し、関係性の把握に努めている。孤立しないよう職員が仲介役になり利用者同士が関わり合えるように努めている。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価)	
			ご希望があれば退所後も連絡を取り合って、フォロー支援に努めている。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価)	
			日々の会話から思いや希望を聞き取ったりし、ケアプラン更新時に本人の意向をくみ取って反映している。	
			(外部評価)	
			前回の外部評価を受け、管理者は、「利用者の思いを深く知りたい」と、ケース記録に利用者との会話や要望を記録する取り組みを始められた。又、利用者の入居前の生活についてご家族にお聞きして、職員全体で共有する仕組みを作られ、口数の少ない利用者のお若い頃の様子を知ることにつながり、ご本人とのコミュニケーションが図りやすくなったという成果もあったようだ。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価)	
			入居時にセンター方式を活用し、家族に記入してもらっている。また、日々の会話の中から生活歴を探り暮らしの把握に努めている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価)	
			日々の利用者の様子をケース記録に残し、現状の把握に努めている。	

自己評価及び外部評価表

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価)	
			本人・家族の意思とアセスメントを基にケアカンファレンスを開催している。事前に専門職からの助言を確認しながら、体調や状態の変化に伴い介護計画の作成を行っている。	
			(外部評価)	
			センター方式の様式を用いて、利用者、ご家族から暮らし方の希望をうかがい、毎月のカンファレンスで職員全体で話し合い、3ヶ月に1回、介護計画の見直しを行なっておられる。	介護計画と記録のつながりについても工夫して、モニタリング等にも力を入れて取り組み、利用者の現状に即した介護計画の作成につなげていかれてほしい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価)	
			日常の様子、状態の変化を記録に残している。申し送り事項は、法人内で共有できるシステムを取り入れており、全職員が把握できる。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価)	
			利用者の状況、身体状態に合わせて、柔軟なサービス対応に努めている。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価)	
			利用者の要望に合わせて食料品の購入に商店へ行ったり、銀行・郵便局も利用している。また、夏祭りには、学生ボランティアを受け入れている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	(自己評価) 経営母体が病院であるため、何かあればかかりつけ医に診てもらえる環境にある。透析患者はその都度観察し、内科の患者は2週間に1度回診を行っており利用者・家族共に安心して頂いている。	
			(外部評価) 入居前には、母体病院に検査入院されており、入居後は、主治医の2週間に1回の往診がある。ケガや急な体調不良時は、看護職員と相談して必要に応じて母体病院の医師が対応されており、職員は、ご家族にその都度、利用者の様子について報告をされている。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	(自己評価) ホーム内や病院の看護師にパソコンでの伝達や連絡ノート、口頭で伝えるようにしている。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	(自己評価) 入院時には介護要約を作成し、提出している。また、早期退院できるよう関係機関と情報交換を行い、関係強化に努めている。	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) 本人・家族の意思を優先し、主治医・看護師・介護職員で情報共有しながらチームで支援に取り組んでいる。	
			(外部評価) 看取りの支援については、入居時と状態変化時に、利用者・ご家族・主治医・職員で話し合いをされている。母体病院か事業所での看取りを希望される方が多く、今年度、2名の利用者の看取りを支援された。透析されている利用者が多いことから、急変することもあるため、職員は、母体病院からの連絡や、又、ご家族の思いを伝え合うことも大きな役割となっている。先日亡くなられた利用者のご家族に、「ケース記録」をお見せしたところ、「亡くなる前、いろいろなことを職員と話していたんですね。亡くなる前の様子が良くわかりました」と感謝されたようだ。	

自己評価及び外部評価表

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 内部研修・外部研修にて応急処置や急変時の対応を学んでいる。また、マニュアルを作成し全職員への周知徹底を図っている。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 年2回消防訓練を母体病院と共同で行っている。また、緊急連絡網を作成し、全職員に緊急要請ができるようにしている。 (外部評価) これまで、隣接する母体病院と一緒に訓練を行っていたが、今年度8月に、初めて事業所単独の避難訓練を実施された。利用者は見学され、職員が利用者役となり、2階から担架を使用して利用者を避難させる訓練を行なわれた。職員の「緊急連絡網」を作成され、管理者・リーダーはすぐに事業所に駆けつける体制を作られた。「敷地内は禁煙」「避難経路に物を置かない」「ガスコンロを使用している時は、決して動かない」等、職員で取り決めを作っておられる。	管理者は、「単独の避難訓練をより現実感がある設定で行ないたい」と話されていた。又、消防署の方と相談しながら訓練をすすめる取り組みも検討されており、リーダーは、防災士の資格取得にも挑戦しようと考えておられた。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 個々の人格を尊重し、誇りやプライバシーを守ることを大切に対応している。 (外部評価) 職員は、「利用者のペースに合わせる」「話をゆっくり聞く」ことに取り組まれており、利用者と視線を合わせながら会話をされていた。利用者同士でトラブルになりそうな時には、職員が間に入ってお互いの意見やお話を聞くようにされている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 安心できる日々の環境作りに努め、利用者が自己決定できるような声かけを行っている。	

自己評価及び外部評価表

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、 一人ひとりのペースを大切に、その日をどのよ うに過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 本人の希望、体調を考慮し個々のペースで過ごせるように 支援している。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう に支援している	(自己評価) 定期的に出張美容を利用している。また、更衣時に本人に 服を選んで頂いたり、買い物レク時気に入った服を購入され ている。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好 みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に 準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 週3回の選択メニューを選んで頂いている。また、管理栄養 士と相談しBBQや芋たきなどの季節の行事等で楽しんで頂 いている。 (外部評価) 管理栄養士や調理師が利用者と食事をする機会を設け、希望を伺 うようにされている。水分や食事の成分・量の制限がある利用者が 多く、薄味の食事に慣れていただけるよう職員は、「体にいいのよ 」と声かけしたり、利用者が強く要望される場合には、しょうゆを準備 されている。水分制限のある利用者もおられるが、職員の席をずら し、水分摂取が大丈夫な利用者が見えないように配慮されたり、話 しかけたりして水やお茶に視線が集中しないよう支援されている。 職員は、利用者と同じ食事を一緒に食べながら「今日の味付けは どうだった？おいしかった？」と利用者に感想を聞かれたり、残食 状況等を確認されていた。朝食は、職員が準備されており、朝食用 の煮物を作っていると、利用者は「イイにおいやね」「週3回の味噌 汁は楽しみ」と喜ばれるようで、朝食は完食されるようだ。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じ て確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣 に応じた支援をしている	(自己評価) 透析をされている方もいるので、管理栄養士と相談し食事提 供を行っている。今までの習慣に応じ、朝食はご飯やパンを を選んで頂いている。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、 一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔 ケアをしている	(自己評価) 毎食後、口腔ケアの声かけ、介助を行っている。必要があれば 歯科往診にて口腔ケアの指導を受けている。	

自己評価及び外部評価表

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価)	
			個々の排泄リズムを考慮し、声かけ・誘導している。本人のできる力に合わせて排泄ケアを行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(外部評価)	
			利用者は透析を行なっている方が多く、排泄については母体病院の看護師とも連携して確認されている。トイレでの排泄を続けるためにも、歩行機能の維持、向上は大切であることから、職員は、ご自分の力で動いていただけるような働きかけに努めておられる。	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価)	
			透析日は入浴できないが、本人の体調や状況に応じて入浴を楽しめるように支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(外部評価)	
			週に3回程度入浴できるよう支援されている。湯船で温まりながら歌を歌う方もいる。調査訪問時には、利用者は入浴前に居室で下着等を準備しておられた。入浴後は、ご家族が持って来られたローション等を付ける方もおられる。入浴を嫌がる利用者には、時間を置いてから再度声かけする等して支援されている。	
46			(自己評価)	
			その日の体調を考慮し、日中でも居室で休んでもらえる環境を作ってる。夜間は個人の睡眠パターンを把握し、ゆっくり休めるよう灯りの調整等を工夫している。	

自己評価及び外部評価表

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価)	
			かかりつけの薬局の薬剤師より薬の説明を受けたり、薬の説明書を出してもらっている。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価)	
			センター方式シートや日々の会話から本人の楽しみや気分転換出来る事を提供できるように努めている。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価)	
			天気の良い日には散歩の声かけを行っている。また、季節ごとのドライブレクを計画したり、希望者には誕生日レクで外出している。	
			(外部評価)	
			買い物のお好きな利用者が多く、大型スーパーへ洋服・食料品等を見に行くことができるよう支援されている。調査訪問日、利用者が、「スーパーに出かけたら、人が多くびっくした、品物もいっぱいあるし楽しいよ」と話してくださった。利用者数名ずつが順番に、道の駅や季節のお花を見に出かけることを支援されている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価)	
			金銭管理の出来る方にはご自分で管理して頂いている。出来ない方も、買い物時本人の力に合わせて支払いをしてもらうなどの形で支援している。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価)	
			居室に電話を設置している。いつでも使用できるようになっているが、かける事が出来ない方は職員が電話をかけ、通話できるように支援している。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) リビングから中庭が見え、野菜や花を見ることができる。また、外出時の写真を貼ったり季節感のある飾り付けをし、居心地のいい空間作りに努めている。	
			(外部評価) 利用者・職員で短冊を書いた七夕飾りが中庭に飾られていた。お花のお好きな利用者が、居間に腰掛けた際に見える位置に、お花を植えておられる。ミニトマトも栽培されており、利用者と職員が水遣りをされる。昼食後は、おしゃべりしたり、テレビを見たり、居室で横になる等、思い思いに過ごされていた。事業所の駐車場では、バーベキューや芋たきを楽しまれることもある。今後も、利用者の心を和ませるような雰囲気や環境作りに配慮や工夫を重ねていかれてほしい。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) 自由に空いている席に座ったり、中庭のベンチ等で過ごして頂けるように配慮している。	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 自宅で愛用されていた馴染みの家具や思い出の物を持参して頂き、居心地良く過ごせるように努めている。	
			(外部評価) 居室の洗面台でご自分のものを洗濯する利用者がおられ、職員は、絞って干す等を手伝いされている。仏壇を持ち込み、毎日水を替えたり、お経を唱える利用者もおられる。利用者が若い時から使用されているタンスを持ち込まれていたお花、お花がお好きな利用者は、ご家族が持って来られたお花の写真やプリザーブドフラワーを飾っておられた。調査訪問日、居室でお気に入りのぬいぐるみとお話している方がおられ、ご本人が「この子は、目を開けたり、声も出るのよ」と教えてくださった。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) ホーム内は段差がなく、手すりを設置している。また、トイレや浴室には目印となる表示やのれんを使用している。	